

産業振興と人材育成の拠点「エス・バード」の現況報告

報告者（公財）南信州・飯田産業センター
（エス・バード指定管理者）

平素より（公財）南信州・飯田産業センター及び「エス・バード」の活動にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

また、今般の豪雨による被害に遭われました方々にお見舞いを申し上げます。

当センターの活動については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、4月から5月にかけて施設の休館を行い、ご不便をおかけしておりましたが、6月より適切な制限とともに事業を再開しておりますこと、以下状況と併せてご報告させていただきます。

今後も地域産業の振興に寄与する施設として努力してまいります。みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

【令和2年度の施設利用状況】

ポイント

- 貸館事業については、休館の影響により4、5月の利用数は減少。6月以降についても大人数のイベント等が自粛されており、利用人数の増加が当面見込めない状況です。
- 共創の場については、4、5月は貸館と同様ですが、6月以降は高校生等の自習利用がコロナ前の状況に戻るなど、利用人数が回復しています。
- 工業技術試験研究所については、コロナ禍による企業のR&Dの遅れ等により、全体では利用回数が減少。一方で、環境試験機器や食品試験機器の利用については、認知がなされてきており、地域外からの利用も含め増加しています。

(1) 貸館事業 (R2年度4/11～5/31は臨時休館)

	4月		5月		6月		計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
R2	31	151	20	70	50	535	101	756
(R1)	(49)	(2,606)	(60)	(3,186)	(64)	(3,750)	(268)	(15,410)
比較	-18	-2,455	-40	-3,116	-14	-3,215	-167	-14,654

(2) コワーキングスペース (R2年度4/11～5/31は臨時休館)

	4月	5月	6月	計
R2	5	0	391	394
(R1)	(3)	(14)	(4)	(127)
比較	2	-14	387	267

(3) 工業技術試験研究所

	4月		5月		6月		計	
	延べ企業数	件数	延べ企業数	件数	延べ企業数	件数	延べ企業数	件数
R2	27	141	28	154	45	421	100	716
(R1)	(40)	(158)	(35)	(257)	(44)	(197)	(162)	(1,000)
比較	-13	-17	-7	-103	1	224	-62	-284

うち環境試験機器（着氷試験室、防爆試験室、燃焼・耐火性試験室）

	4月		5月		6月		計	
	延べ 企業数	件数	延べ 企業数	件数	延べ 企業数	件数	延べ 企業数	件数
R2(R1)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)	5(2)	17(2)	6(3)	18(3)
比較	0	0	0	0	3	15	3	15

うち食品系試験室

	4月		5月		6月		計	
	延べ 企業数	件数	延べ 企業数	件数	延べ 企業数	件数	延べ 企業数	件数
R2(R1)	11(3)	31(13)	2(1)	5(5)	11(4)	58(7)	24(8)	94(25)
比較	3	18	1	0	7	51	16	69

【(参考) 令和元年度事業報告の概要】

1 施設利用事業

(1) 貸館事業（平成 29 年度実績比 件数 125.9%増、人数 151.7%増）

利用の別	件数 (件)	利用者数 (人)
有料利用	533	51,163
無料、減免、内部利用	348	9,523
共創の場	—	3,122
合計	881	63,808

※平成 30 年度の途中でエス・バードへ移転したため、平成 29 年度との比較としています。

(2) その他貸館事業

①売店及び飲食店

②インキュベート室（全 6 室のうち 5 室が入居済みまたは入居手続き済み）

2 産業振興事業

(1) 研究開発支援事業（インキュベート室の利用促進）

(2) 需要開拓事業（地場産業体験教室等の開催、展示会等への出展）

(3) 地域ブランド構築事業（デザインサポート、水引業界への活動支援、シードルのブランド化等）

(4) 産業活性化事業（地場産業団体の活動支援、「I-Port」へ参画）

(5) 情報収集提供事業（エス・バード通信発行等）

3 人材養成事業

(1) 飯田産業技術大学（延べ 971 人参加）

(2) EMC シンポジウム（20 年継続）

(3) 航空機システム環境評価試験シンポジウム「ASES」（令和元年度初開催）

(4) 新社会人養成講座（全 4 回 53 人参加）

4 飯田ビジネスネットワーク支援センター

(1) 共同受発注事業（展示会出展、H29 以降 3 年連続で取引成約金額 10 億以上）

(2) 連携製品開発事業（複数会員企業による開発や販売の連携）

5 飯田工業技術試験研究所

(1) 利用実績

年度	地域内利用	地域外利用	利用計
30	513	188	701
1	571	143	714

うち環境試験機器（着氷試験室、防爆試験室、燃焼・耐火性試験室）

年度	地域内利用	地域外利用	利用計
29	3	1	4
30	2	8	10
1	13	30	43

うち食品系試験室

年度	地域内利用	県内利用	県外利用	利用計
30	1	0	0	1
1	38	4	6	48

6 新産業クラスター事業

- (1) 航空宇宙クラスターの形成支援（講演会、共同顧客開拓、伊那テクノバレーや長野テクノ財団との連携事業等）
- (2) メディカルバイオクラスターの運営支援（医療機器系・食品系分科会、ルミナコイド研究会の立ち上げ等）
- (3) 次世代航空機開発に必要な環境試験機器の整備と高度技術者の育成及び共同研究体制の構築（環境試験機器の整備、航空機産業及び環境試験機器に関する人材育成事業等）

7 エス・バードの活用推進

- (1) 信州大学航空機システム共同研究講座の支援（修士取得者 H31年度2人、R1年度6人）
- (2) デザイン系高等教育機関の設置に向けての展開（準備会開催、シンポジウムの開催）
- (3) 視察の受入（104団体 1,431人）